

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	270500549		
法人名	社会福祉法人青森民友厚生振興団		
事業所名	青山荘グループホーム		
所在地 (電話番号)	〒037-0011 青森県五所川原市金山字盛山42番地8 (電話) 0173-35-4252		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 11月 19日	評価確定日	平成 21年 1月 10日

【情報提供票より】(平成20年10月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(10月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	名
要介護1	4	名	要介護2	2	名
要介護3	3	名	要介護4	0	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢	平均 87.7 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤内科小児科医院、布施病院(精神科)、成田歯科、桂整形外科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

五所川原市内から青森市方面に10分程進んだ丘陵地帯に位置し、周囲はリンゴ畑で近くには金山焼き窯元や職業訓練短大があり、車で5分程で大型ショッピングモールに到着する。広い敷地には、ホームに隣接する本体施設である特養・デイサービス・居宅介護支援センター・在宅介護支援センターがある。また、三つの庭園があり、憩いの場となっている。建物は平屋で天井まで吹き抜けの開放感のあるロジ風の造りである。玄関から中に入ると明るく、床暖房とファンヒーターで暖かい。室内は、常に温度・湿度に注意して管理されている。お風呂は、檜の浴槽に天然温泉の個浴でいつでも入浴ができる。午前中は、リビングの中心にあるアイランドキッチンに入居者と職員が集まり、賑やかに昼食の準備をしている。ボールで和え物を作る方、盛り付けをする方、それぞれに役割を持っており、料理の味付けは入居者に聞いて調整している。居室は大きな窓に二重のカーテン、洗面所とトイレが設置されており、生活の動線が短くプライバシーが守られている。希望外出では、個々に入居前の地域に出掛けたり、知人を訪ねるなどこれまでの人間関係を大切に支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>家族への報告では、遠方の家族に月1回程度の報告をしてはどうかとの意見があったが、職員が家族と話し合いを重ねたところ2ヶ月に1度で良いとのことだった。ホーム便りの送付も合わせて行うこととした。重度化・終末期に向けた方針共有では、入居の契約時、重説に入院後の対応は明記されているが、ホームに於ける重度化・終末期等の対応に向けた方針は今後検討していく。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組んでおり、外部評価の結果を踏まえて改善に向けて具体的な検討を行いサービスの質の確保に努めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>外部評価の結果を公表している。また、検討事項の改善経過を報告し意見交換している。日常の個別ケアや外出状況・食事について報告し、緊急時の協力体制について具体的な取り組みに繋げていくよう検討されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>家族に面会後に職員との話し合いの場を設け、ホームの設備・職員への要望や苦情、介護計画に関すること、年間行事・サービス全般について聴いている。聴き取りした内容は、玄関に置かれた意見書に記載したり、職員がメモした物をミーティングや定例会議で検討し、具体的な対応として業務改善に繋げている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>松島地区住民協議会(町内会)に入っており、ため池周辺道路の草取り等、地域活動に参加・協力している。地区コミュニティーセンターの主催である収穫祭では、ホームの農園で収穫された大根等の野菜や手芸作品を出品して好評を得ている。施設周辺住民はリンゴ農家の方が多く、普段から気軽に立ち寄り、野菜や漬物等の提供を受けている。毎年、長橋地区のながはし保育園の園児の慰問を受けている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域生活の継続支援と地域との関係性強化の考え方に立ち、入居利用者の方々と全職員で事業所独自の理念をつくりあげている。事業所理念は、地域や利用者のニーズ、事業所の状況に応じて毎年つくり変えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング・会議の時に理念に触れて確認している。日々のサービス業務・具体的なケアの中で意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	松島地区住民協議会(町内会)に入っており、ため池周辺道路の草取り等、地域活動に参加・協力している。地区コミュニティーセンターの主催である収穫祭では、ホームの農園で収穫された大根等の野菜や手芸作品を出品して好評を得ている。周辺住民はリンゴ農家の方が多く、普段から気軽に立ち寄り、野菜や漬物等の提供を受けている。毎年、長橋地区のながはし保育園の園児の慰問を受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は全職員で取り組んでおり、外部評価の結果を踏まえて改善に向けて具体的な検討を行いサービスの質の確保に努めている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年間の実施計画を立て、2ヶ月に1回実施している。会議参加者は、利用者、家族、地区老人クラブ会長、神社氏子総代、施設長、管理者、計画担当者が出席し、外部評価の結果を公表している。また、検討事項に改善経過を報告し意見交換をしている。日常の個別ケアや外出状況・食事について報告し、緊急時の協力体制について具体的な取り組みに繋がっていくよう検討している。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域ケア会議に毎月1回状況報告している。在宅介護の関係で市役所窓口に行く事が多く、地域密着型サービス担当者とサービスについての考え方や相談する機会がある。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>玄関のところには、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての概要を説明した文書を掲示しており、家族からの問い合わせがあれば対応する準備ができています。現在、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用している方はいない。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について特養との合同委員会に参加し、施設全体の取り組みとしている。外部研修に復命発表報告やホームのミーティング・定例会議の中で、職員の対応・言葉遣い等、虐待に該当しないか検討し、内容の理解と周知徹底を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時にホームでのサービス内容等について、重要事項説明書・三者契約書で説明している。重要事項説明書は、サービスの内容や入居に際しての確認事項が具体的に判りやすく詳述されている。十分な説明により、利用者や家族等の不安・疑問に答えている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には、ホームでの最近の様子・健康状態・小遣いの使用状況の確認をしている。また、家族から施設への要望や苦情について聴き、サービスの向上に努力している。遠方の家族には、どのくらいの期間で報告してもらいたいかを確認した上で連絡し、状態変更時には随時電話連絡を行っている。また、3ヶ月毎に発行しているホーム便りを全ての家族に郵送している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会後に、職員と話し合いの場を設けている。ホームの設備・職員への要望や苦情、介護計画に関する事、年間行事・サービス全般について聴いている。聴き取った内容は、玄関に置かれた意見書に記載したり、職員がメモした物をミーティングや定例会議の中で検討し、具体的な対応として業務改善に繋げている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知症対応型施設の特徴と役割として法人内の異動は少なくしている。異動対象者と新任職員が1ヶ月間業務をともにして、家族との信頼関係を築き、馴染みの関係を作っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の4月新任研修に参加してから、現場配置となる。途中採用者は、管理者・計画担当者が中心となり、レベルに合わせた現場研修を進めている。外部評価終了後、職員全員から希望する研修を聴き、グループホーム関連の外部研修の参加を組んでいる。復命後は、研修の報告発表をしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し、ケアサービスの向上や地域交流・各事業所との情報交換を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接するディサービス利用者やショートステイ利用者からの入居申し込みが多く、現在の事業所を利用しながら、ホームのサービス内容の理解や不安の解消、家族の状況等の把握や家族の相談に応じている。また、入居後も居宅介護支援事業所と協力し、入居者との信頼関係を築きながら生活の継続が出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム農園の農作業は、農業経験豊富な入居利用者の指導で畝作りから収穫まで進められている。収穫した大根等は日々の食材として提供され、更に漬物にして保存されている。また、来客者にお茶を入れる等、入居者のできる範囲でお手伝いしてもらっている。互いに支え合い協力している場面が多かった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントにセンター方式を使用し、入居前から現在に至る細かな情報で本人の状態や思いを把握している。また、日常生活の中でコーヒータムや食事時の話題・おやつ等で、個々の入居者の希望を聴き実行している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作成する時は、計画担当者やケース担当者、本人・家族と話し合い、意見交換をしながら介護計画を作成している。都合で参加できない家族は面会時に意見を聞いて計画に反映させている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎の定期的な介護計画の見直しと共に、1ヶ月毎にモニタリングと評価をケース担当者が行い、入居者の状態変化に応じて介護支援専門員が介護計画の見直しを行っている。介護計画の見直し・作成には、入居者本人・家族の参加で現状に即した計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院は施設協力医院のほかに、これまで地域で通院していた病院についても家族協力の下に受診できるように支援している。隣接するディサービスセンターの中で、毎月1回理学療法士によるリハビリ指導を受けている入居者がいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医療機関の他に、入居前からのかかりつけ医の治療を継続している入居利用者もあり、複数の医療機関と関わりを密接にしている。入居者の受診に際しては、家族の協力を得て行っている。事業所の協力医療機関については、本人・家族に説明し同意を得ている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時には、特養に併設する施設として、重度化したときの対応について、本人・家族に説明し理解を得ている。また、入居者が重度化した時の対応として特養施設への移行の説明は行っている。しかし、入院・退院後のグループホームでの生活を希望すること、あるいはグループホームで終末期を迎えるまでの生活を希望する方について、本人・家族、医療担当者や管理者・ケアスタッフによる方針の共有がない。</p>		<p>入居者が住み慣れた場所で、家庭的な環境の下で人間関係を継続し、今後障害が重くなってもホームでの生活を続けたいという入居者の意見に対して、介護度等の判断や併設システムを活用した移動を勧める中で将来の状態の変化に向けてホームの方針作りに取り組むことが望まれます。本人・家族とホームスタッフが、ホームの重度化・終末期の方針を共有し、現在の入居者の考えた身体・精神状態を確認し、毎年その内容を文書に残す事で重度化や終末期に対してホームの方針を共有し、相互理解を図る事ができるのではないのでしょうか。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーに配慮して居室には表札は掛けないで、居室入り口に掛けた暖簾等で間違えないように配慮している。呼称や言葉掛けに注意し、常に入居者を尊重する態度で接している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>午前中にコーヒータイムで入居者の方が集まってから、その日の天気を見てホーム農園で畑作業をするか、外に出掛けるか、室内で編み物や手芸作品を作るか等、それぞれの希望に添った支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アイランド式キッチンで料理を入居者の方と一緒に作り、盛り付けして配膳している。キッチンを中心に自然と入居者の方々が集まり、笑い声が響く中で昼食やおやつ準備が進められていた。入居者と共に畑で作った大根やささげを食材に煮物やニシン漬にして食事に出している。リビングとキッチンが一体化しており、カウンターでお茶を入れる方やボールに入れた食材を混ぜ合わせたり、テーブルにいる方も味付けを手伝ったりしている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天然温泉で常時お湯が出ているので浴室は暖かい。また、洗い場が広く、中心に檜の浴槽を据えた個室がある。温泉によりいつでも入浴可能である。歩行状態の良好な利用者が多いので職員の見守りによる入浴を行っている。また、夕方からの勤務シフトを厚くして、ゆっくりと入浴を楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関の掃除やゴミ出し、花壇・プランター・植木鉢の水遣り、ホーム農園の管理・収穫、手芸作品の製作、枯れ葉集め、お茶入れ、漬物づくり等、季節に合わせた役割や楽しみごとを支援している。畑作業は、農業経験者から職員が指導を受けて行っている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、午前中にコーヒータイムが設けられており、この時に外出の希望を聴いて出かけている。金山焼きの近くまで散歩したり、大型ショッピングモールでの買い物や催し物を見物に行っている。かつて住んでいた地域を回ったり、知人を訪問したりして入居前の人間関係を大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>特養施設と合同で身体拘束に関する研修会を設けている。定期的に会議があり、研修報告や新しい情報をもとにホームでの身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>来客者や農園に行く方・花壇の水遣り、玄関の掃除をする方の確認の為、また無断で一緒に付いて出て行くこともあるため、職員の見守りと共にセンサーを使用している。夜間は不審者の侵入を防ぐ為施錠している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>特養施設と合同で年4回の消防訓練(避難・誘導・通報等)を実施している。このうち金山地区消防第5分団協力による消防訓練を2回実施している。ホーム単独で地震想定での避難・誘導訓練を年1回実施している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居利用者と職員で相談して毎日のメニューを決めている。水分量や栄養バランスについては、施設栄養士から助言をもらっている。職員は同じテーブルで食事を摂っており、食事の様子や食事摂取量・服薬の確認をしている。服薬のある方には、お茶の他に別にカップで水が出されている。食事の進まない方への声かけは優しく、笑顔が出てくる話題で食欲を盛り立てている。また、一人ひとりの食べるペースで見守りをしている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症の対応マニュアルを作成し、最新の情報を取り入れて全職員へ周知している。特養施設の看護師の指導や合同の委員会で予防対策を進めている。洗面所に消毒液を置きペーパータオルを使用して感染症の予防に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>太い梁が組み合わさり、天井は吹き抜けで明るく圧迫感のないロジ風のリビングになっている。当日初雪が降っていたが、床暖房と小さなファンヒーターで十分な暖かさであった。アイランド式キッチンでリビングとキッチンが一体化されており、いつでも入居者が調理のお手伝い等自由に参加できる雰囲気づくりをしている。入居者は、それぞれコーナーのある応接セットや木製のテーブル・椅子で新聞を読んだり、テレビを見たり、調理の手伝いをして過ごしている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の身体状況によって、備え付けのベッドは電動ベッドか木製ベッドを使用している。トイレ・洗面所があり、冷蔵庫・テレビ等が持ち込まれ、使い慣れた居室として整えられている。愛着のある小物や写真・家族の遺影等が所々に置かれている。空気清浄器や床暖房の設備があり、大きな窓には、遮光とレースの二重のカーテンが取り付けられている。</p>		

 は、重点項目。